

陽明学関係書 紹介と短評

○岡田武彦 著『王陽明大伝 生涯と思想』（四）（五）

（『岡田武彦全集』4、5）

二〇〇四年十一月、二〇〇五年十月。明德出版社。

A5版、297、398頁。

（四）

（五）

第十五章 贛州時代の心境と講学 第十八章致良知説の唱道

第十九章 陽明晩年の思想

第十六章 江西時代と宸濠の乱 第二十章 思恩・田州の靖乱

第十七章 陽明の苦難 終章 陽明の臨終

目次を見るだけで、王陽明の生涯がどのように展開した一生であることの概略が想像されるが、四巻を完成された後に、著者の岡田先生は亡くなられ、五巻は、草稿とメモが残された。それを本全集の編纂を担当されている門下生の森山文彦氏が、残されたものによって完成にこぎつけられた。付録に王陽明の精神を朗唱することを通して体得してほしいと作られた『警世の明文―抜本塞源論―王陽明の万物一体思想』（平成十年刊）の「抜本塞源論」と「王陽明の子孫」（先生から親しく教えを聞いた浙江省社会科学院の研究員銭明氏の著書より抄出）を併載している。

なお本書の口絵には王陽明の銅像の写真と「王文成公像贊」がある。像及び贊辞についての成立事情は本書を参照していただきたい。

○岡田武彦 著『王陽明と明末の儒学』（上）（下）

（『岡田武彦全集』10、11）

二〇〇四年六月、明德出版社刊。A5版、371、363頁。

本書の元版は、昭和45年、同社刊の一冊ものを上下二冊に分けて、下冊に、付録として『陽明学入門』（『陽明学大系』第一巻、昭和46年刊）所収の「陸王学譜」上を「陸王学の系譜」と改題して収めている。本書は絶版となっていて、古書で高価となっていただけに、この刊行は有り難い。

○岡田武彦 著『劉念台文集』

（『岡田武彦全集』13）

二〇〇五年六月、明德出版社刊。A5版、349頁。

本書の元版は、昭和54年に「中国古典新書」として刊行されたもの。これに劉念台に関する論考を四篇、付録として併載している。その出処は次の通り。

（1）「解説劉念台」（『陽明学大系』第7巻、『陽明門下』（下）

昭和49年刊。

（2）「劉念台と許敬菴」（『宇野哲人先生白寿祝賀記念東洋学論叢』

昭和49年、所収）

（3）「劉念台の誠意説について」（『中国思想における理想と現実』

昭和58年、木耳社刊。所収）

（4）「劉念台の誠意説」（九州大学『哲学年報』第十四輯所収）

次に陽明学関係の啓蒙書2冊紹介する。

○松川健二著『王陽明のことば』

平成十七年六月、財団法人斯文会 刊。B6版171頁。

MY古典—親と子の東洋古典教室—というシリーズの一冊として刊行されたもの。このシリーズの刊行者は、今日の日本の現状を憂えて、

「政治の混乱、経済の低迷、学校や家庭の崩壊等、今日わが国はかつてない憂うべき社会状況に陥り、人心の荒廃も目に余るものがあります」と述べ、これを打開するために、「古来日本人の精神を築き上げて来た儒教を主とした古典の意味を見直し、これを人間教育の拠り所とすべきであると考え」て、東洋思想の眞の姿を後世に伝えるために東洋の古典を刊行するという。

本書は、王陽明のキーワードとなつてゐる言葉十一を、十二の項目（「抜本塞源論」だけは二つにわけてあるため）として、訓読文こそ載せているものの、一般の人が分かるように平易に解説しており、これを読むことで、王陽明の思想が理解できるようにしてある。「親民（民を親しむ）」「格物（物を格す）」からはじまり、「抜本塞源論」で終わる。この項目に、それぞれ余話がついていて、これは、佐藤一斎、大塩中斎から始まるが、ここにあげられた十人の日本の陽明学者のエピソードを、中江藤樹から西郷南洲まで、時代順にならべると、日本の陽明学簡史を呈しており、陽明学のいい入門書である。

本書の著松川健二先生は、二松学舎大学陽明学研究所長を三年前まで勤められた。その面で、打つてつけの方である。

○小林日出夫 編『陽明学一〇〇のこころ』

平成十六年十二月、未来塾刊。B6版、263頁。

「リーダー達の行動哲学」というサブタイトルがついているように、編者は、現代の価値観の多様化と道徳観の混乱のなかにある世の中に、次の世代を担う人々のための行動哲学として、陽明学に生きた人の言葉を、〇〇示して、そこに心に適った一言を見つけただけだきたいという。

このような意図のもとに、三十四人の思想家（中国人十八人から五十八、日本人十六人から四十二）の言葉を選んで解説を加えたもの。最後に簡単な研究書案内がある。

言葉の採録に、王陽明から二十五というのは当然として、安岡正篤から十五採られているところに、編者が岡田武彦先生と本書出版について企画した際の思いが読み取れる。

○王暁所・李友学 主編『王学之魂』

二〇〇五年九月、貴州民族出版社刊。A5版、387頁。

本書は2002年一〇月に、中国、貴州省の貴陽（修文県）において行われた第2回陽明文化節及び陽明學術研討会において発表され、収録されたものに、近年編輯している『貴陽王陽明研究会会刊』の中から選ばれた論文を編集したもので、三十三篇より成っている。編者の王暁所氏は貴陽王陽明研究会会長。

李友学氏は同副会長である。

内容は、次の通りである。

王暁所「良知与和諧社会」（代序）

劉学沫・史繼忠「文化之峰起黔山」

吳雁南「心学大師王陽明」